

1 取組の内容

(1) 基礎・基本を定着させるための工夫

- ア 語い指導の工夫
- イ 多様な音読練習
- ウ レベル別暗唱活動

(2) コミュニケーション活動の改善

- ア 導入の工夫
- イ 発展的な表現活動への取組

(3) 学習環境づくり

- ア 校内掲示の工夫
- イ 学習習慣の育成

(4) 小・中・高の連携

- ア 授業参観と情報交換
- イ 小中 ALT 打合せ会

2 研究の実践

(1) 基礎・基本を定着させるための工夫

ア 語い指導の工夫

コミュニケーションの基礎である語いの習得を目指して、単語テストや基本文テストでは目標点を決めて、繰り返し挑戦する場を設けている。新出単語の練習では、すぐに日本語を与えるのではなく、文字とイメージを結びつけるために、可能なものは画像と合わせて紹介している。また、本文を読むときに単語の意味を類推させたり、辞書を引かせたりして、文の中で単語を捉えることを試みている。

イ 多様な音読練習

chorus reading や read and look up、pair reading など、様々なパターンで繰り返して音読練習に取り組ませている。家庭学習にも音読と英文の書き取りを位置づけ、文字と音声のリンクを図っている。

ウ レベル別暗唱活動

音読練習を行った後、レベル別の暗唱プリントを用いて暗唱活動に取り組んでいる。生徒は自分が挑戦するレベルを選び、個別またはペアで暗唱に挑戦する。家庭での音読練習の際にもレベル別暗唱プリントを活用するように指導している。当初はレベル1からレベル3になるにつれて空欄が増えるものだけだったが、生徒からの提案で、すべて覚えるレベル4も設けることにした。また、日本語訳を見て英語を言うパターンも作り、学年に応じて工夫している。

☆Recitation (暗唱)

ALT や JTE に
よる個別のチ
ェック

◆ Level 1

- This is Astro (). ○He is () *manga* character.
 ●But I can't draw () very well. Sorry! ○His () is "Atom" in Japan.
 ●Astro Boy is very powerful () smart. ○He can () fast.
 ●And he can () sixty languages. ○I like () a lot.

◆ Level 2

- | | |
|--|--------------------------------|
| ● This is () (). | ○ He is () <i>manga</i> (). |
| ● But I () draw () very well. Sorry! | ○ His () is "Atom" () Japan. |
| ● Astro Boy () very powerful () smart. | ○ He () () fast. |
| ● And he can () sixty (). | ○ I like () a (). |

◆Level 3

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|
| ● This () () (). | ○ () is () <i>manga</i> (). |
| ● But I () draw () () (). Sorry! | ○ His () is "Atom" () (). |
| ● Astro Boy () very () () (). | ○ He () () (). |
| ● And he () () sixty (). | ○ I () () a (). |

◆Level 4 without this handout

ア 導入の工夫

ウォームアップとして、単語の説明や Q&A など、リスニングやスピーキングを中心とした活動を、一斉やペアなど形態を変えながら取り組んでいる。授業のねらいに関連した内容にすることで、他の活動や技能につなげることをこころがけている。

○活動例 1 ＜説明を聞いて単語を当てる活動＞

- ① 教員がペアの 1 人に単語を示す。
- ② 生徒はパートナーに英語で説明する。
- ③ 1 分間で単語を当てればポイントがつく。
- ④ 役割を交代して同様に行う。
- ⑤ どのように説明したかを全体で確認。

○活動例 2 <生徒によるあいさつと Q&A>

- ① 当番の生徒が前に出て、日付や天気、調子などを質問する。
- ② 学習したことを追加したり、ALT から質問したりして、少しずつバリエーションを変える。

○活動例 3 <ペアでの Q&A 対話練習>

- ① 授業の最初 5 分間を使う。
- ② 文法事項に関連した Q&A を、最初はプリントの通りに練習する。
- ③ ペアを変えながら、数回繰り返し練習する。
- ④ 慣れたら、ランダムに質問したり、自分自身の答えを言ったりして、少しずつ発展させる。
- ⑤ 最終的には、相づちを打ったり、相手に聞き返したりすることを意識しながら対話させる。

レッスンごとにあるTaskやユニットの最後にあるProjectでは、課題を通して「聞く」「書く」「話す」活動に連動して取り組める。これらに、十分時間をとって取り組ませることが統合的な活用に結びつくと考えている。

○取組例 1 <愛南町のおすすめスポットを ALT に紹介しよう 3 年 Unit1 Project>

- ① 紹介したいスポットを選び、理由を書かせる。
- ② ペアで紹介文を作成する。
- ③ 写真を選び、プレゼンを作る。
- ④ 発表のポイントに気を付けて、練習する。
- ⑤ 発表会を行う。ALT からの質問に答える。
- ⑥ 自己評価をして、活動を振り返る。

○取組例 2 <Four Corners / Three Doors 1 年 Lesson7>

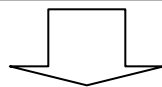
- ① 新出表現を十分練習した後、グループで課題に取り組む。
- ② 4 人の人物についての情報を書いた紙を教室の四隅に置き、担当を決めて情報収集する。その際、メモは取らずに覚えてグループのメンバーに伝える。
- ③ わかった情報をもとに、それぞれの人物について英文にまとめ、その人物が誰かを考える。

○その他の取組例

- ・ 自己紹介 (1 年 Unit 1 Project)
- ・ Who is this クイズ (1 年 Lesson 4-Part2)
- ・ 写真を用いた Show & Tell (1 年 Lesson4 Task)
- ・ 友達の紹介 (1 年 Unit 2 Project)
- ・ 食べ物あてクイズ (2 年 Lesson2-Part4)
- ・ 行ってみたい国について (2 年 Lesson4 Task)
- ・ スポーツのルールについて (2 年 Lesson 5)
- ・ 将来の夢 (2 年 Unit 2 Project)
- ・ 環境問題について (3 年 Unit 2 Project)

各学期末には、ALT によるインタビューテストを実施し、学習したことが活用できるかどうかを評価した。2 学期末のテストでは、「質問に対して 2 文以上で答えよう」という目標を示し、コミュニケーションを継続することを意識させた。それに対して、意欲的に取り組む生徒が多く見られた。

1 学期末は、ALT との Free Talk と質問 5 問で実施。



2 学期末は、ALT との Free Talk + ALT への質問 2 問、ある人物の情報を見て、それに関する質問 5 問。

(3) 学習環境づくり

ア 校内掲示の工夫

校内の教室表示やその場面で使う表現などの英語を掲示して、様々な英語に触れる環境を作っている。階段に生徒が授業で作ったクイズを貼ったり、掲示板に季節の行事に関するクイズを出したりと、生徒の英語に対する興味・関心を高めることがねらいである。教室移動をしながらクイズに挑戦する生徒もあり、通りがかりに質問をする姿も見られるようになった。また、3年生の少人数クラスが使用している教室では、授業に関連した掲示や本の紹介が生徒の目を引いていた。

イ 学習習慣の育成

だれとでも協力して学び合える環境づくりがコミュニケーションの力を伸ばす土台となると考え、授業では、ペアやグループによる活動を多く取り入れるようにしている。これについては、今回の推進委員会を通して、小学校・高校でもペアやグループ活動を取り入れるなど、連携を図りながら進めている。また、家庭学習の仕方を示し、授業と家庭学習との連動を意識して指導に当たっている。

(4) 小・中・高の連携

ア 授業参観と情報交換

南宇和郡では、小中で学校群を構成し、3年サイクルで研究に取り組んでいる。本校は、校区の小学校6校と研究グループを作り、言語活動の充実と学習習慣の定着を交流の視点として研究を進めている。また、郡の外国語委員会で授業参観や協議の機会を持ったり、小中連絡会で情報交換を行ったりする活動を以前から続けている。今回の指定を受け、さらに高校とも授業参観等を通じて学び合うことができた。小学校では、コミュニケーションを続けることを意識した活動を通して外国語学習への意欲や態度を育て、高校では、家庭学習と連動した暗唱活動から対話活動に取り組むことで、コミュニケーション能力の向上を図っている。今後もそれぞれの接続を考えた取組を行うことで、小・中・高と生徒がスムーズに学べるよう、一層指導を工夫するとともに、協力体制を充実させていきたい。

5 成果と課題

(1) 成果

- レベル別暗唱活動では、何とかして言えるようにしようと単語の発音を質問するなど、一生懸命取り組む生徒が増え、音読の上達につながっている。
- Task や Project に時間をかけて取り組んだり、4技能の組み合わせを意識した言語活動を工夫 したりすることで、発表の場が増え、生徒の自信や意欲の向上につながった。
- 定期テストでの活用問題に対する回答率はわずかではあるが上昇した。授業で繰り返し学習したことが「書く」力にもつながりつつある。
- 校内の様々な掲示は、生徒の興味・関心を高めるのに役立っている。今後も、学習活動と関連づけた掲示を工夫していきたい。
- 小・中・高の交流によって、それぞれの学習の様子を知ることができた。小学校での活動を把握した上で新出表現を導入することは、生徒の学びの連続性につながる。今後も情報交換の機会をとらえ、学習指導の改善に努めたい。

(2) 課題

- 音読・暗唱活動は、普段は生徒同士で行うため、どのように取り組んだかを全て把握することは難しい。単元に1回は教師によるチェックを行うことで、生徒に目標を持たせて取り組ませたい。今後も、どのように意欲を持たせるかを考えて改善を加えていきたい。
- 言語活動では、ルールに従って活動することができない生徒がいたため、活動の目標を明確にして取り組んでいる。課題の設定の仕方を工夫し、生徒が苦手とする「書くこと」に関連付けた活動を多くすることで、「書く」意欲を高めていきたい。
- 学習習慣の育成については、小学校、高校との連携が生きる場所である。学習形態や間違いが許される雰囲気作りを意識するなど、生徒の実態に即して今後も情報交換を続けていきたい。